



イギリス

製品安全制度の改善・強化を

- which? ホームページ <https://press.which.co.uk/whichpressreleases/which-calls-for-an-urgent-overhaul-of-uks-broken-product-safety-system/>
- イギリス政府：リコールと安全に関する作業部会報告 <https://www.gov.uk/government/news/working-group-report-demonstrates-progress-on-product-safety> ほか

2017年6月、ロンドンの高層住宅で発生した大火災の原因は、アメリカのメーカーの冷凍冷蔵庫と断定された。このメーカーについてはタンブラー乾燥機500万台以上に発火の危険性が指摘されているため、Which?では乾燥機を対象に速やかなリコールを強く求めている。

メーカー側は無償修理を提供するとして該当製品の所有者の登録を開始したが修理は進まず、その間にも750件を超える発火事故があり犠牲者も出ている。メーカーを管轄する地元の取引基準局が「安全に関する警告」を発令、消費者への注意喚起を行ったがリコールは実施されていない。

このような家庭用品等による危害について、監督、規制する担当所管は地方の取引基準局である。しかし予算削減による専門スタッフ等の不足から、安全

に関する対応は遅れているとWhich?は指摘する。製品の安全性は最終的にはメーカーの責任だが、しっかりと監視・監督が行き届いて初めて消費者の信頼を得ることができるとして、地方に分散・依存している監督機能を国レベルに集約した独立機関および一元化された製品安全情報提供ポータルサイトの必要性を主張した。政府は、2016年12月の「リコールと安全に関する作業部会」の報告書を公表したが、Which?はこれに対し地方に対する支援強化策にとどまるとして否定的見解を示している。

また、ブレグジット交渉*の成り行きによっては、EU域内の製品危害に関する早期の相互監視等の埒外となる懸念もあり、現行の企業、地方任せの製品安全制度の改善を急ぐべきであるとしている。

* イギリス政府のEU離脱にかかる交渉



香港

シャンプーをテストする

- HKCC ホームページ https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/490/shampoos.html ほか

最近のシャンプーは「ノンシリコン」「ナチュラル」、中には「抜け毛予防」をうたうものまであるが、アレルギーや有害物質の心配はないか、HKCC(香港消費者委員会)がテストを行った。対象は60銘柄で、一般向け39、女性向け3、男性向け7、抜け毛が心配な人向け11銘柄である。その結果、38銘柄から1,4ジオキサン*が、また12銘柄からアレルギー原因物質の防腐剤MIT(メチルイソチアゾリノン)やCMIT(メチルクロロイソチアゾリノン)が、1銘柄で遊離ホルムアルデヒドが検出されたほか、14銘柄には詳細な成分表記が無かった。HKCCは政府に対し成分表示の規制導入を急ぐよう要望している。

検出された1,4ジオキサンは、中国の「化粧品安全技術基準2015」の基準値以下であったにもかかわらず、7銘柄はEU(欧州連合)の化粧品安全科学

委員会(EUSCCS)の基準を超えた。しかし通常の使用では特に安全性の懸念はない。

MITおよびCMITが検出された12銘柄のうち3銘柄はEUSCCSの推奨安全基準を超えており、そのうち薄毛脱毛防止をうたう1銘柄は、皮膚科専門医によれば脱毛が心配な場合、特に注意が必要で、傷口に防腐剤が触れると副反応が強く出ることがあるという。シリコンが含まれるコンディショナー入りシャンプーは「ツヤが出る」などとうたうが、毛髪表面の損傷の回復は不可能で効果は一時的である。「ノンシリコン」などとうたっている13銘柄でも防腐剤や遊離ホルムアルデヒドが検出された。香りの好みで選ぶ消費者も多いが、17銘柄の香料はアレルギーと認定されるものであり、消費者は成分をよく確かめて購入すべきである。

* 1,4ジオキサンは揮発性有機化合物。IARC(国際がん研究機関)によるグループ2B発がん物質。日本では消防法による危険物第4類指定。



ドイツ

葉菜類・ハーブによる食中毒を防ぐために

- BfR ホームページ http://www.bfr.bund.de/de/presseinformation/2017/28/lebensmittel_aus_blaettern_und_graesern_koennen_krankheitsreger_enthaltent-201250.html
- 欧州委員会 ホームページ https://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

野菜をあまり食べないと言われていたドイツ人だが、最近では事情が変わってきた。生の葉菜類やハーブは、サラダの具として頻りに食卓に上るようになり、これらを原料としたハーブティー、グリーンスムージー等も女性を中心に消費が伸びている。

ところが、清潔に見える生食用野菜も、細菌に汚染されていることがある。EU(欧州連合)のRASFF(危険な食品・飼料に関する緊急警告システム)には、サルモネラ属菌に汚染された野菜・ハーブ類に関する情報が、数多く通報されている*。しかも、生の葉だけでなく、乾燥させた葉も油断できない。乾燥ハーブを原料としたサプリメントが、腸管出血性大腸菌に汚染されているとして通報されたこともある。そこで、BfR(ドイツ連邦リスク評価研究所)は、葉

菜類やハーブ類による食中毒を防ぐためのヒントを公表した。

まず、生食する葉物野菜等は、食べる前によく洗うこと、特にサラダ用に小さくカットされた野菜やグリーンスムージーは汚染されやすく、時間が経つほど細菌が増殖することから、7℃以下に保ったうえで速やかに消費するよう助言する。スムージーの細菌増殖を抑制するには、レモン汁が有効だという。またハーブティーは、滅菌のため、沸騰したお湯で浸出させてから飲むよう助言する。

さらに、妊婦や高齢者など抵抗力の弱っている人は、パック詰めされたサラダを食べないほうが無難だとする。乾燥ハーブを原料とする健康食品も、飲食前に医師に相談するよう注意を促している。

* ウェブ版「国民生活」2014年10月号「海外ニュース」http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201410_07.pdf



フランス

泡立て器破裂による死亡事故を受けて

- INC ホームページ <http://www.60millions-mag.com/resultats/recherche/explosion%20un%20siphon%20chantilly%20fait%20un%20mort>
- DGCCRF ホームページ <https://www.economie.gouv.fr/dgccrf/siphons-culinaires-dgccrf-appelle-consommateurs-a-vigilance>
https://www.economie.gouv.fr/files/files/directions_services/dgccrf/presse/communique/2017/CP-siphons-culinaires31072017.pdf

ホイップクリームが手軽にできるとして、菓子作りが好きなフランス人の間で、ガスを使う泡立て器が流行している。金属容器に生クリーム等を入れ、ガスを注入して振る方式で、さまざまなメーカーの商品がある。

ところが、ガスの圧力で容器が破裂する事故が相次いでおり、INC(フランス国立消費研究所)とDGCCRF(経済・財務省競争・消費・詐欺防止総局)は数年前から注意喚起を繰り返してきた。

このようななか、2017年6月には、破裂した泡立て器が胸に直撃して著名ブロガーが死亡する事故が発生し、フランスで大きく報道された。しかも、この直後にも、破裂事故が数件発生したことから、両機関は改めて危険な泡立て器の一覧表を実名入り

で公表するとともに、泡立て器を所有する消費者に対処法を紹介している。

それによると、一覧表に掲載された製品の所有者には、直ちに使用を中止し、販売業者等に返品するよう勧める。返金等を拒否された場合は、居住県の詐欺防止局に通報するよう助言する。製品名等が不明でも、本体がアルミニウム製で上部がプラスチック製なら、接続部に問題がある古い製品の可能性が高いことから、使用を中止するよう警告する。

なお、2013年12月に発生した破裂事故により、頭と顔に重篤な傷害を負った女性が民事訴訟を起こしていたが、2017年8月に判決が出た。裁判所が輸入業者等に命じた賠償額は109万ユーロと、同国では異例の高額になったという。